

なぜ「部活動の地域移行」なのか？

1 国の方針

休日の部活動について令和5年度から令和7年度までの3年間で「地域クラブ活動への改革推進期間」とする



休日の地域連携・地域移行に取り組みつつ地域の実情に応じて、可能な限り早期の実現を目指す

令和4年12月 スポーツ庁・文化庁

学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン

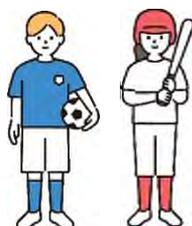
2 背景

①生徒数の減少

今後10年で生徒数が大きく減少し、複数の部活動が廃部になる可能性があります。

現在も生徒数の減少により課題が生まれています。

- ・1校ではチームが編成できない
- ・やりたい種目の部活動が学校にない



令和6年4月現在

	岳洋中	菊川西中	菊川東中
野球	○	○	○
ソフトボール	—	○	—
サッカー	—	○	○
男子バレーボール	—	○	—
女子バレーボール	○	○	○
男子バスケットボール	○	○	○
女子バスケットボール	○	○	○
陸上競技部	○	○	○
剣道	○	○	○
男子卓球	○	○	—
女子卓球	○	○	—
男子ソフトテニス	○	○	○
女子ソフトテニス	○	○	○
吹奏楽	○	○	○
美術	○	○	—
情報技術	—	—	○

②教職員の働き方改革

現在の部活動は、教員の時間外勤務や休日出勤で支えられています。

平日

授業	部活動	授業準備など
----	-----	--------

時間外勤務時間

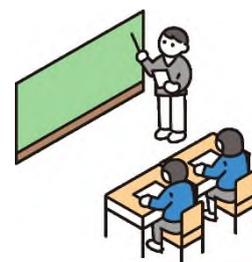
勤務終了時刻

16時30分

休日

部活動	
-----	--

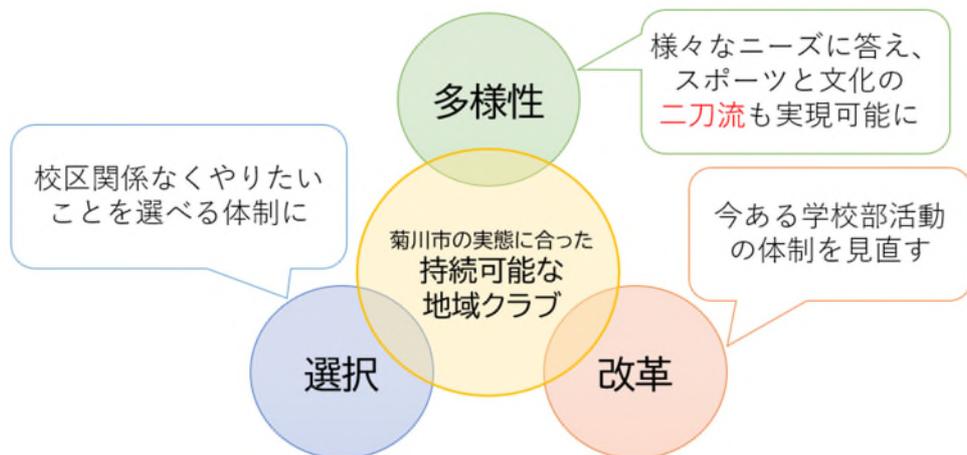
時間外勤務時間



- ・部活動指導だけで1ヶ月の時間外勤務の上限45時間近くまで到達してしまう。
- ・授業準備、ICT活用、生徒指導など様々な業務に注力する必要がある。

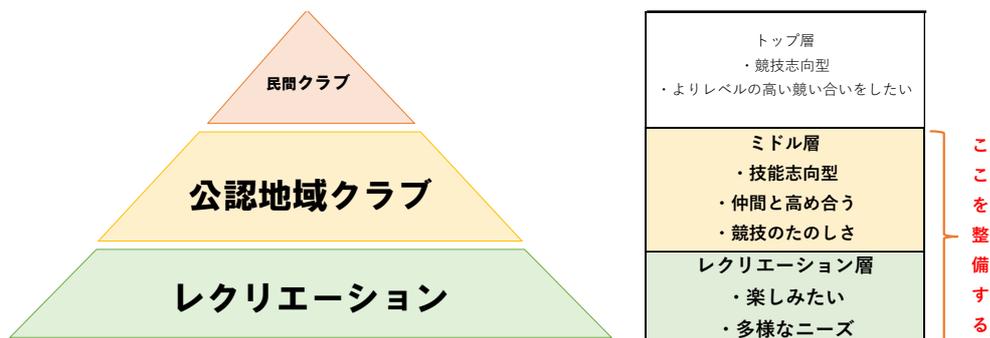
休日の部活動の地域移行の方向性

菊川市の実態に合った持続可能な地域クラブを目指し、「改革」「選択」「多様性」をキーワードに検討しています。まずは休日の部活動の地域移行に向けて検討を進めています。既存の部活動の地域移行だけでなく、様々な地域クラブ(スポーツ・文化)を拡充することで、子どもの多種多様な体験活動や学校以外の地域の居場所づくりの実現を目指します。



体制イメージ

基本的な技能の習得や競技の楽しさを実感することを目的とした地域クラブの整備を進めます。

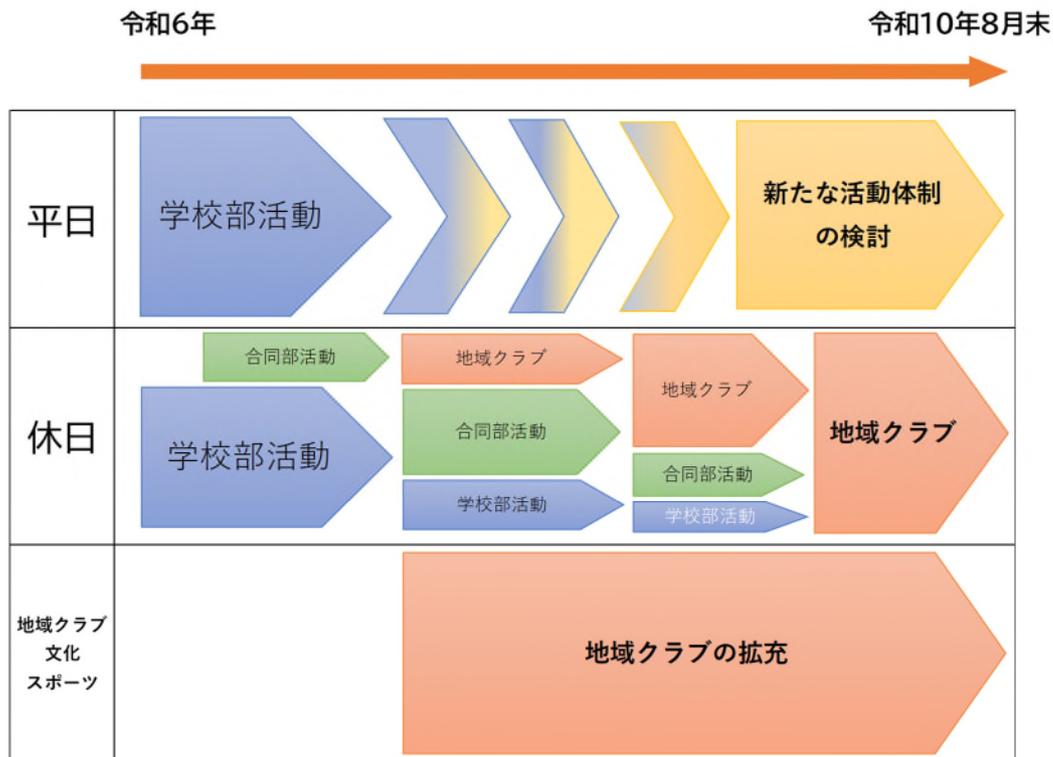


休日の地域移行の活動イメージ

	平日 学校部活動	休日 地域クラブ
施設	学校施設 	市内スポーツ・文化施設 (学校施設含む)
種類	野球 陸上 サッカー 吹奏楽 バレーボール 美術 など	野球 陸上 サッカー 吹奏楽 バレーボール 美術 など +様々なスポーツ・文化活動を選択可能に
指導者	教職員	地域の指導者 (希望する教職員も可能)

スケジュール

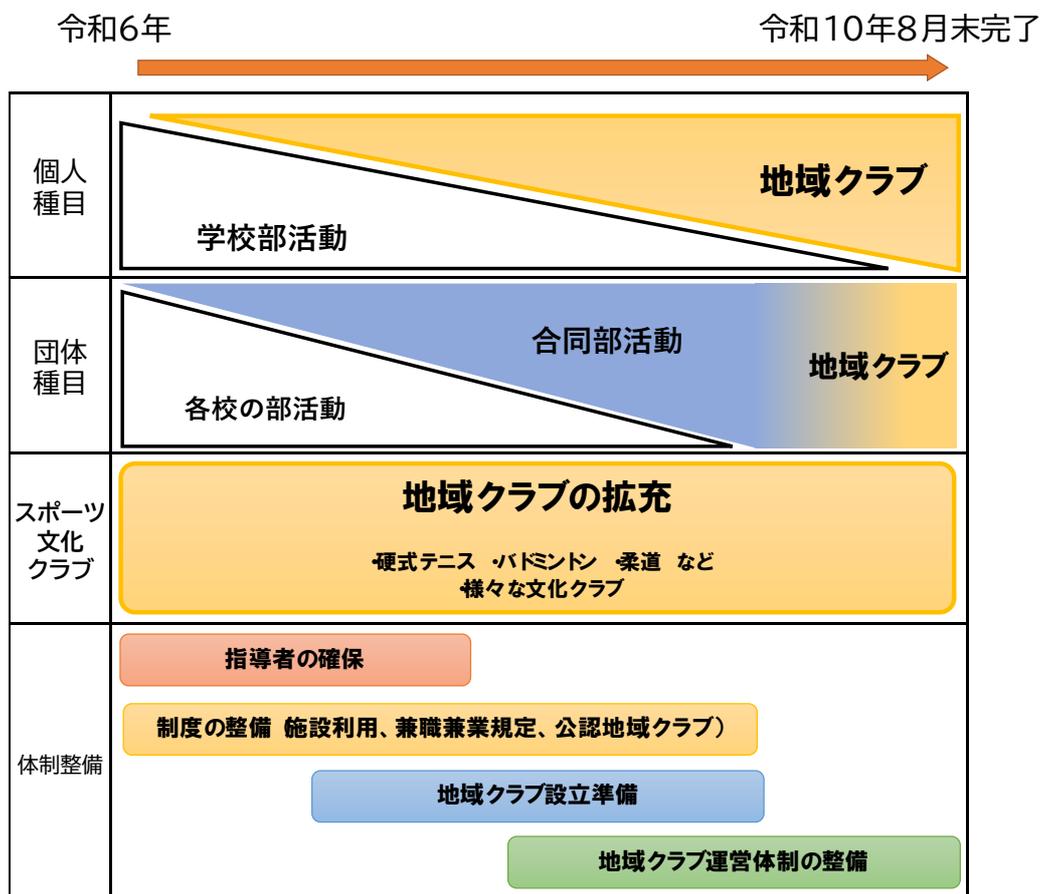
学校部活動と地域クラブと連携し、段階的に進めていきます。



段階的な休日の地域移行イメージ

種目によって実態が異なります。全ての種目が一斉に移行するわけではなく、

整備ができた種目から段階的に休日の地域移行を開始します。



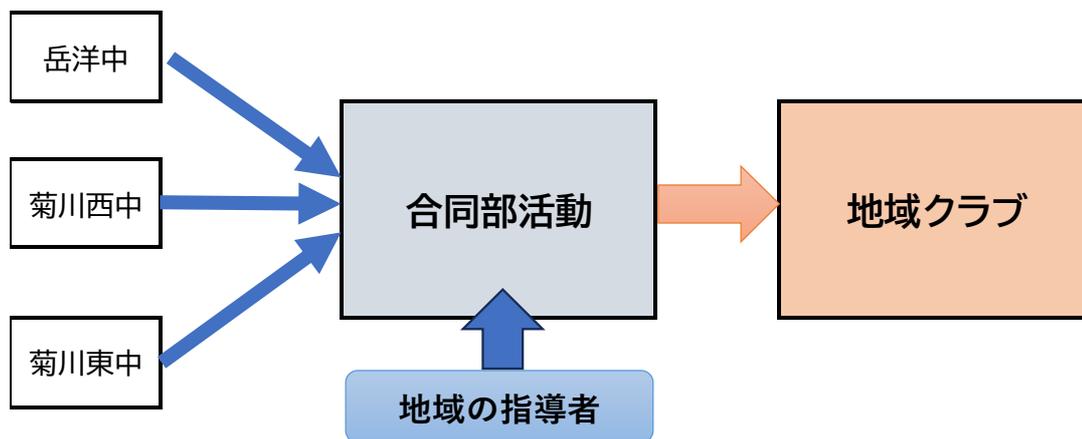
休日の地域移行の進め方

・運動部（個人種目）

菊川市内の複数の地域クラブと休日の地域移行に向けて調整中。準備が整い次第、段階的に休日の地域移行を進めます。 ※令和6年10月～陸上競技部の休日の地域移行の試行を実施

・運動部（団体種目）

○3校で1つの**合同部活動**を設置 ○地域の指導者と連携 ○地域クラブの母体をつくる



・文化部

中学生を受入可能な文化団体について、生徒が選択できるよう体制を整備します。

合同部活動と合同チームの違いとは？

	合同部活動	合同チーム
目的	生徒の活動機会や活動場所を確保するため	大会出場のための <u>一時的な救済措置</u>
条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>規定人数を満たしていても可能</u> ・ 部活動のない学校の生徒も参加可 ・ 顧問は1名以上が配置される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一方が規定人数を満たさない場合 ・ 原則2校まで (3校以上は中体連承諾が必要) ・ 部員数の変動により見直す必要あり ・ 各校に顧問が必要である。